

どんぐりのおはなし

観察しよう

コナラやクヌギなどの実を、普通「どんぐり」といいます。どんぐりは野生の木の実としては大変大きいうえに、栄養価も高いので、林の昆虫や鳥、けものたちにとっては重要な食物です。リスやアカネズミ、ムササビといった哺乳類や、キジバトやカケス、オシドリなどの鳥の仲間もどんぐりをよく食べますが、どんぐりを最もよく利用しているのはコナラシギゾウムシでしょう。この昆虫はどんぐりの中に卵を生みつけ、若い幼虫はどんぐりを食べて育つのです。

どんぐりは、また、人間の食べ物としても多に利用されてきました。縄文時代などの遺跡からは、貯蔵されたどんぐりがしばしば発掘されていますし、農山村では最近まで、灰汁であくをとることで日常の食物として利用されていました。また、おとなりの韓国では今でもどんぐりを加工して、ムックという食品を作っています。

また、どんぐりを使って遊ぶこともできます。親指大の形のよい丸いどんぐりは、竹串を通すとコマになります。良く回るのはクヌギ、次にカシワの実でしょう。カシヤコナラの実は、やや細長いので、「やじろべえ」を作るのに良いでしょう。

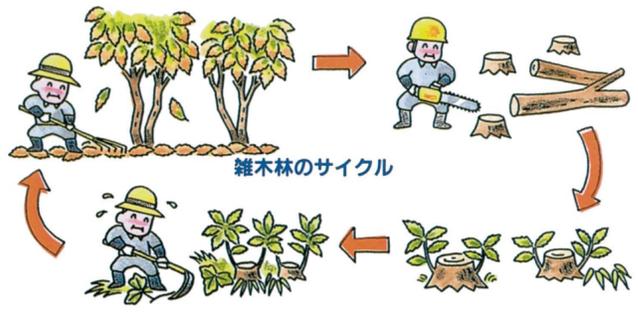


武蔵野の雑木林

「昔の武蔵野は萱原のはてなき光景を以て絶類の美を鳴らして居たやうに言ひ伝えてあるが、今の武蔵野は林である。林は実に今の武蔵野の特色といってもいい」 国木田独歩は、明治31年に著した「武蔵野」の中で、当時の武蔵野の姿をこのように描いて称赞しています。

武蔵野に広がっていた雑木林は、薪や炭を得るために、15～20年の間隔で伐採され、その切り株から出た芽から育てられてきた林です。こうした利用がくり返し行われてきたため、切り株から芽を吹く力の強いコナラやクヌギなどの樹木だけが、株立ちの樹形となって残っているのです。また、毎年のように下草刈りと落ち葉掃きを行って、集めた落ち葉や下草を田畑の肥料として使うため、よく手入れされた雑木林の林の中は、下草がきれいに刈りはらわれて、比較的明るくなっています。

雑木林は、自然を破壊することなく、その力と性質とをコントロールして、継続した利用を図ってきた見事な知恵が生み出した風景ともいえます。燃料革命などによって、雑木林が農用林や薪炭林として果たしてきた役目が失われてきたとしても、私たちの祖先が工夫と愛情をもって育て、人々の生活とともに維持されてきた林であることを考え、大切にしたいものです。

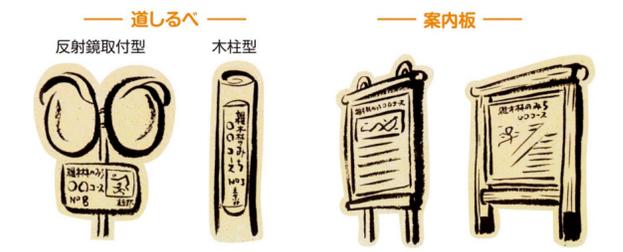


「雑木林のみち」へようこそ

■「雑木林のみち」とは
東京都は多摩東部地域に残る雑木林を保全し、この雑木林を中心とした武蔵野らしい風景をつづる道を「雑木林のみち」として選定しました。コース周辺に残る平地や崖線の雑木林を、都民の貴重な財産として維持し、親しんでいただくことを目的としています。

■「雑木林のみち」の特徴
「雑木林のみち」のコースは次のような点に留意して選定しました。
1. コースの周りに雑木林や畑が比較的良く残っていたり、水辺に沿って歩けるなど、散策や自然観察に向いている。
2. 保全地域や保存樹林などに指定され、武蔵野の風景が守られている。
3. それぞれのコースは、半日あればゆっくり散策できる。
4. 電車やバスなどの交通の便が良い。

■「雑木林のみち」の歩き方
「雑木林のみち」は、この地図のコースに沿って歩いてください。地図に標示されたコース沿いには、ところどころに下記のような案内板や道しるべが設置されています。なお、保全地域や公園などコース外であっても散策してみると、新たな発見があるかも知れません。



ここに注目!玉川・野火止コース

■東京都薬用植物園
ここでは、薬用植物を収集、栽培し、薬用植物の基礎的な試験研究や生薬の品質検査を行っています。園内は一般公開され、約1600種の薬用植物が栽培されています。

■野火止水歴史環境保全地域
野火止水用水は、今からおよそ300年前の承応4年(1655年)、徳川三代将軍家光の時代に、時の老中松平伊豆守信綱が武蔵野開発のために開削した水路で、玉川上水の分水の一つです。昔は飲料水や灌漑用水として使われていましたが、昭和48年、上水からの分水が停止されました。

流れが途絶えてまもなく「再び野火止水用水にいのちを」という声が高まり、東京都は、これに応えるため昭和49年12月に保全地域に指定するとともに、下水高度処理水の利用による「清流復活事業」を計画し、昭和59年に流れがよみがえりました。

今では、放流したフナ、クチボソ、コイなどが元気に泳いでいる姿を見ることが出来ます。



「雑木林のみち」は10コース



次の10コースを「雑木林のみち」として選定しました。

コース名	愛称	延長	風景と特徴	位置
1 清瀬中里コース	広野と街道のみち	10.5km	畑の広がりや屋敷林	清瀬市
2 松山・青葉町コース	森のこみち	5.9km	大平地林なごりの林	清瀬市・東村山市
3 黒目川・柳窪コース	屋敷林のみち	6.3km	黒目川源流の屋敷林	東久留米市
4 小山・金山コース	丘のこみち	5.0km	黒目川崖線の雑木林	東久留米市
5 南沢・南町コース	里のみち	5.9km	湧水と新田集落風景	東久留米市
6 玉川・野火止コース	用水の散歩みち	6.2km	用水沿いの雑木林	小平市・東大和市
7 国分寺コース	みずかみのみち	4.7km	崖線の樹林と湧水	国分寺市
8 矢川・青柳コース	せせらぎのみち	5.9km	崖線の樹林と湧水	国立市・立川市
9 野川・深大寺コース	八ヶの散歩みち	5.2km	野川緑道と崖線樹林	三鷹市・調布市
10 調布若葉町コース	こもれびのみち	4.6km	入間川の段丘崖樹林	調布市・世田谷区

6 玉川・野火止コース

用水の散歩みち

玉川・野火止コース○小平市・東大和市
○延長6.2キロメートル
交通・高田馬場から西武線で50分東大和市駅下車



雑木林のみち・玉川・野火止コース
登録番号第(31)97号
環境資料第31108号
編集年月 令和2年3月
発行年月 令和2年3月
編集発行 東京都環境局
新宿区西新宿 2-8-1 TEL03(5388)3555
印刷 内外地図株式会社
イラスト 川上洋一



3 小川のたけやき
このあたりは玉川上水の水を利用して小平周辺で最も早く新田開発が行われたところ。樹齢300年を超える旧家竹内家のたけやきは市内最大の巨木で、昭和62年3月に小平市の天然記念物に指定されました。
このたけやきは、竹内家がこの地に移り住んだ、寛文年間(1661~1671)に春の赤風と秋の台風と備えて植樹された数多い木の中に生存している1本で、現在「竹内家のたけやき」と呼ばれ市民に親しまれています。

4 玉川上水歴史環境保全地域
玉川上水は承応3年(1654年)、幕府が江戸町民の飲み水を確保するために開削した水路です。
昭和40年まで、江戸・東京市民の飲料水を送り続けましたが、淀橋浄水場の廃止に伴い、小平監視所より下流は水が途絶えていました。昭和61年8月、およそ18kmの区間で清流が復活し、水路沿いには雑木林が連なり、緑道も整備されています。東京都では平成11年3月に玉川上水の開渠部分を保全地域に指定しました。また、平成15年には国の史跡に指定されました。

5 こもれびの足湯
平成19年4月に、玉川上水沿いに「こもれびの足湯」ができました。井戸から汲み上げられた水が、ごみ焼却炉の余熱を利用してお湯になり、足湯に注がれています。さらに、焼却炉の冷却水として利用されています。散策で疲れた足を休めてみてはいかがでしょうかでしょう。

